

一字一筆

静岡の今

「スポーツの秋」を迎えた。10月8日は「体育の日」、県内各地で様々なスポーツイベントが開催された。県も10月を「スポーツ推進月間」と定めて、「週に一度はスポーツをしよう!」と呼び掛けている。夏の猛暑、豪雨、地震、台風などの自然災害の対応に疲れた人々を、さわやかな風と青空がスポーツや野外活動に誘っている。

ふと、身の回りの秋の景色を探してみると、大きく様変わりしているの気付く。

秋の催し 様変わり

例えば、秋の風物詩だった小中学校の運動会。最近、秋に小学校の運動会を見る機会がめっきり少なくなった。

静岡市教育委員会によれば、今では同市内の86小学校のほとんどが運動会は5、6月に実施している。秋はほかにも学校行事が集中することや、運動会のために残暑の中で野外練習することを避ける学校が多くなったためらしい。団体行動で友達づくりをするためにも新学年の早い時期に運動会を実施する方が効果的との判断もあるようだ。

スポーツと並んで祭りや行楽も秋の風景だが、こちらも様変わりした。祭りといえばみこし行列や「五穀豊穣」を祈る神事が多かったが、静岡市清水区で9月16日行われた

「茶ノ国祭り」の主役は若者たち。モダンな衣装でよさこい踊りを披露した。同区のIAIスタジアム日本平では10月7日、サッカーJリーグの清水エスパルスとジュビロ磐田が「静岡ダービー」で対戦、約2万人のサポーターの熱狂が秋空にこたえました。「茶ノ国」にも新しい風が吹き始めている。

今年の「体育の日」は二十四節気の「寒露」。秋が深まり、朝夕の露が冷たく感じるようになった。秋の夜長をにぎわした虫たちはそろって土に潜り、冬眠の準備。毎年「秋分の日」前後に咲きそろふ彼岸花は、今年も律義にその役割を果たした。

様変わりの秋に、変わらぬ自然界の「摂理」がある。(前静岡県監査委員・富永久雄)



秋祭りで踊る若者たち 静岡市清水区、全日写真・辻村友博さん撮影